



「広瀬地域のまちづくりを考える市民ワークショップ」の様子。市内在住の10代～70代が参加し、意見を出し合いました。
(令和3年11月7日：広瀬中央交流センター)

公共施設の未来を考える

広瀬庁舎・広瀬中交、鴨来荘の基本構想を策定



公共施設等のあり方に関する3つの基本方針

(1) 施設総量の適正化

人口減少や財政状況に応じた維持管理費用を確保するため施設総量を圧縮し、施設規模の適正化を図ります。

(2) 予防保全・長寿命化

施設利用者の安全確保のため、点検や診断結果に基づき計画的な予防保全を推進し、施設の長寿命化を推進します。

(3) 効率的・効果的な管理運営

民間活力を施設整備や管理へ導入し、民間の資金やノウハウの活用を推進します。

市では、これまで多様化する市民ニーズに対応するため、多くの公共施設を整備し、さまざまな公共サービスを提供してきました。

しかし、これらの施設は今から30年以上前に整備されたものが多く老朽化が進んでおり、今後も大規模改修や建て替えの検討が必要な施設が多くあります。

将来に渡り安定的に公共施設を利用していくために、長期的な視点にたった公共施設のあり方を示す「安来市公共施設等総合管理計画（以下、管理計画）」を令和4年3月に改訂しました。

今号では、改訂した管理計画の概要と、計画に基づき進めている施設の検討状況をお知らせします。



長期的な視点をもって 計画を推進

市の人口は、平成16年の合併時の4万5千人から3万7千人へと減少しており、公共施設を取り巻く環境も大きく変わってきています。

人口が減少していく中で、老朽化が進んでいる施設をこのまま維持していくことは難しく、市民1人当たりの維持管理費用の負担や安来市の財政規模を考慮し、施設の統廃合や縮小、運営方法などを最適化する必要があります。

市では、こうした変化に対応した公共施設の更新、改修および整理統合などを行うことで、将来に渡って安定的に公共施設を利用していくために、管理計画を令和4年3月に改訂しました。

この計画では、市が保有する公共資産のうち、公共建築物、インフラ資産、土地を対象に、向こう30年間の公共施設等のあり方に関して3つの基本方針（3ページ参照）を定めています。

また、計画の改訂にあわせ、市が保有する247施設について、施設ごとに具体的な方針を記載した「資料編」を新たに作

成しました。

一歩踏み込んだ

具体的な方向性の検討

管理計画で示した3つの基本方針を推進するためには、もう一歩踏み込んだ具体的な方針を掲げて実際に動いていく必要があります。老朽化が進む中では待ったなしの状況です。

そこで、課題がある施設の方向性を具体的に検討し、すぐに実行に移すため、令和3年度に市長をトップとした「安来市公共施設活用推進会議」を立ち上げました。

前述した「資料編」は、この推進会議を中心に議論を重ね、毎年度見直しを図っていきま



安来市公共施設等
総合管理計画



また、令和3年度に対応を急ぐ施設の検討を進め、次に紹介する2つの施設の基本構想を令和4年3月に策定しました。

養護老人ホーム鴨来荘 移転整備の基本構想を策定しました

現在の利用ニーズに合わない構造となっている鴨来荘。利用者と管理者の使用状況に合わせた新たな施設の整備に向けた「基本構想」を策定し、具体的な施設の設計の前提となる基本的な考え方をまとめました。

施設整備の基本的な考え方

●施設内容及び規模

現行施設と同じ50人を定員とし、2人部屋から1人部屋とします。施設規模は、要介護認定者への対応のため居室を広くするため現行施設より大きくなることを想定します。施設運営上必要な要件を踏まえ、1階建ての場合は敷地面積5,000㎡程度とし、延べ床面積を2,400㎡とします。

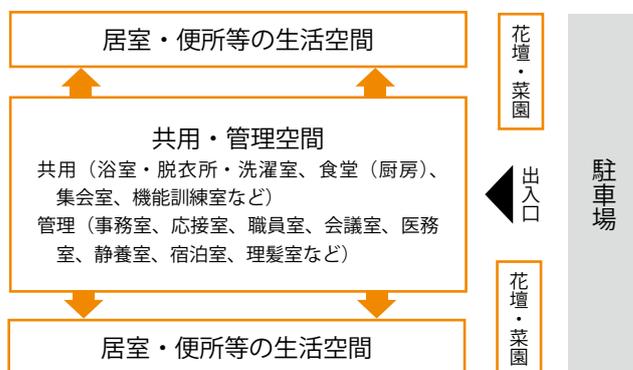
●施設の整備方法

施設の整備にあたっては民間事業者との連携を図ることも視野に入れ、最も効率的な方法を検討します。建設場所は、移転整備を前提として現在地を含む市所有地を基本に検討します。整備方法により新たな建設場所を選定することも考えられます。



◀ 建築から40年以上が経過し、老朽化が進む鴨来荘。

●新規施設の整備イメージ



▶ 「鴨来荘の基本構想」の詳細は、市ホームページ（右記2次元コード）をご覧ください。





市役所広瀬庁舎

・広瀬中央交流センター 整備基本構想を策定しました

老朽化が著しい市役所広瀬庁舎と広瀬中央交流センター。これらの施設の今後のあり方を検討するため、令和3年8月～11月に3回にわたり市民ワークショップを開催しました。

ワークショップには、10代～70代の市民38人が参加。年代別のグループでの話し合いとさまざまな年代の人でグループを作った話し合いを設定。施設のあり方や求められる機能等について意見交換を行いました。

そのワークショップで出された意見を踏まえ、右記のとおり「新たな施設に導入する機能のイメージ」と「コンセプト」を整理。住民活動の活性化が促される拠点施設の整備に向けた基本構想を策定しました。この基本構想は、具体的な施設

▶築50年以上が経過する広瀬庁舎。現在、広瀬地域センターと病院改革推進室が業務を行っています。



◀広瀬庁舎の北東150mに位置する広瀬中央交流センター。建築から40年以上が経過。

設計の前提となる基本的な考え方となります。

令和4年度以降に基本計画を策定し、財政計画と調整して実施年度を決定していきます。

●新たな施設に導入する機能のイメージ 交流センター機能

サークル活動や集会、イベント、大小会議に活用。和室としての利用や、避難所としても利用。

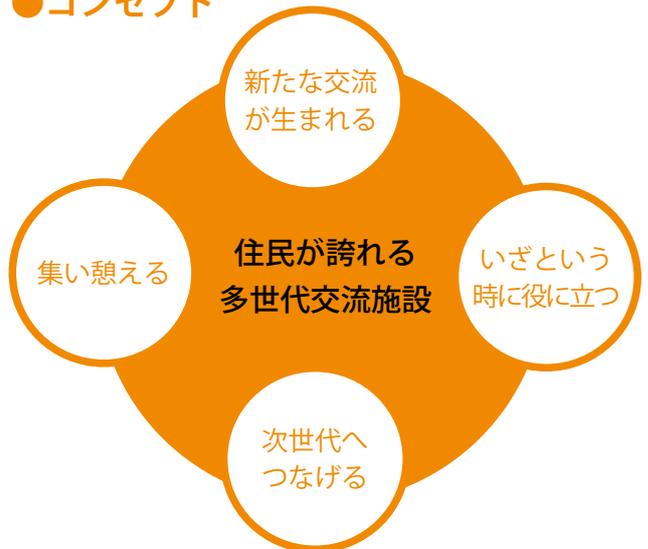
図書室機能

貸出・検索の充実を図り利便性を確保。勉強や読書、親子で読み聞かせができるスペースとしても利用。

共有スペース機能

気軽に立ち寄って休憩や談笑ができるスペース。小人数で勉強や作業など、さまざまな使い方ができるスペース。

●コンセプト



▶「広瀬庁舎・広瀬中央交流センターの基本構想」の詳細は、市ホームページ（右記2次元コード）をご覧ください。



問い合わせ
財政課 ☎23-3023

また、これまで行政主体で行ってきた施設整備・利活用を、民間事業者との連携など新たな手法の検討も必要になってきます。今後も「安来市公共施設利活用推進会議」を中心に、施設の方向性を具体的に検討します。その検討結果を毎年度、管理計画の「資料編」として公表しながら進めていきます。

市民の皆さんと
情報共有しながら
計画を進めていきます

